

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p> <p>職員全員で地域密着型サービスとしての理念を作った。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p> <p>毎朝の申し送りの時に、理念を復唱、共有し、理念に基づいた介護の実践に日々努めている。</p>	○	さらに理念に近づいた介護が出来るよう努力したい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p> <p>家族の方や地域の方、来所された方に理解して頂けるよう理念は玄関などに掲示されている。</p>	○	職員全員が常に理念を意識しながら介護が出来るようにしたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> <p>散歩などの外出時には積極的に挨拶・声掛けするようにしている。子供達には声を掛けて、招いたりしている。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p> <p>行事に参加して頂いたり、地域の行事に誘って頂いたりしている。</p>		地域自体がこれから独立した自治会になろうとしているので、場を提供したり積極的に活動に参加して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在整備を含め、話し合いの段階であり、取り組めていない。	○	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価後は改善策を職員会議で検討し具体策を出し、実行するようにしている。	○	今回の評価を真摯に受けとめ、改善策を話し合っ て行きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会では、利用者状況報告や地域の高齢者の問題点の相談と討議を行っており、施設としてどのような対応を行っていくかを話し合っている。	○	今後も運営推進委員会の協議をふまえ、施設としてどのようなサービス または地域の問題解決に対応するかを会議で話し合うようにすすめて行きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長を中心として、定期的に市役所に出向いて担当者と連携を図っている。必要な内容は報告される。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会があるが、参加が少なく、個々での勉強も不十分なところがある。	○	職員が全員理解できるよう、勉強会を行いたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議でも話し合いがあり、理念に沿った介護を行い、虐待行為がないように気をつけている。	○	職員全員が周知、徹底できるよう努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者および責任者が入所時に重要事項説明書を読み上げて 家族の方と確認して、相互の権利・責任を確認している。 家族の方が疑問に感じられたことは都度説明を行っている。	現在もそうであるが、職員の勤務体制や入所することで環境変化をによる急激な心身変化があること、ケアして欲しいことなど相互の権利やリスクの説明を行い家族の方に理解して頂いて利用して頂いている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方の一对一になった時に、何か困った事がないかなどを聞くようにしており、不満等あれば、直ちに改善策を話し合っている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の広報を発行しており、その際に、報告をしている。健康状態等、何らかの特変があれば都度個別に報告を行っている。	家族と同じような関係を築き、何でも話していただけるような雰囲気全員作れるように努力したい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、来訪の際、何でも話して頂けるような雰囲気作りになっている。 意見があった事に関しては、直ちに問題解決の討議を行っている。	○ 速やかに対応、改善できるようにしたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議以外にも、個別であつたりだか意見を聞く機会があり、その意見を基に反映するようになっている。	家族会の開催を増やし、多くの意見を聞いて反映させたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	家族や利用者の方の身心状況に合わせて勤務調整を行い、なるべく沿えるように努めている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ない場合以外は異動をおこなっていない。	両棟の利用者の方とより一層の馴染みの関係を築けるように、勤務調整を行って、より信頼関係を深めて行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設の掲示板により各研修の案内はされている。意欲ある希望者を優先に受講。内容によって運営者及び管理者が指示して参加している。また参考冊子を回覧して行くことになっており仕事をしながら実践していくことが可能である。会議も全員参加できる体制に整備された。	今後も事業所内外の研修機会を増やし、また法人外で学んだことをスタッフに周知をして、必要に応じて研修会を開催するように働きかけていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互研修や施設見学等の活動を行ってはいるが地域の同業者との関わりは少ない。	地域内のGH事業所と個別に交流の機会を作り参加していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のストレスを軽減するように困難なことについては話し合いをもって検討を行い対応している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	現場で起きている状況変化を知り、問題点を把握するよう努めており、個々の努力や実績を正しく評価して向上心に繋がるように努めている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前の訪問、聞き取り調査(面談)など、本人に会って話を伺い、担当者を中心に話し合いを行っている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から出来る限り困っている事や不安を伺うようにし必要であれば 複数回機会を設けて行っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時は、本人や家族の思いを確認し、必要としている支援を見極め対応している。		当施設に相談に来られる方の多くが入所を考えており他のサービスの相談は少ないものの、柔軟に対応出来る環境にはなっている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなりの利用ではなく、本人や家族の方に見学に来て頂き、両者とも納得して頂いた上で、入所されている。また環境変化が少しでも軽減されるよう、使い慣れた物品や家具の持ち込みも家族に依頼して行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来ない部分は職員が補わせてもらって、利用者の方からは経験から得られた知識等を学ばせてもらっている。		今後もお互いが支えあっている関係を大事に、一番の理解者となれるよう努めたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	常に家族の方の考えを充分に伺い、知恵を借りたり情報共有に努め、一緒に支援していく関係を作るように心がけている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の方との関係を理解して、面会時には居室に案内したり、気軽に談笑できるよう、談話室へ案内をしてゆっくり話せる雰囲気を作っている。		事情は様々だが、どちらの話にもまず共感し、それから個々に対応している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方に来所して頂いている。家族の協力の下馴染みの場所へも出掛けている。		さらに家族にも協力・理解を求めていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の方の中でも小さな社会があり、役割や関係性を理解した上で、時には全員で談笑やレクリエーションが良い関係で行えるように努めている。		孤立感には職員が仲介となり、他者との関わり共に暮らしが楽しめるよう支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院による退所や他施設への転所があるが面会へ行く等を行い、関係継続に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者の方や家族の方から思いを伺ったり、困難な場合は、利用者の方の立場となって考えるように努力をしている。	○	日々の関わりの中での気付けるよう努めていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前より、家族の方や関係機関から生活歴等の情報を伺い、適宜利用者の方から直接伺っている。また、身体状況については、医師からの情報提供も頂き健康状態の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の生活リズムを理解し、能力の尊重を怠ることなく利用者の方が出来ることは積極的に行って頂くように努めている。		日々の変化に気をつけ、利用者の方主体で暮らしが営めるよう、心がけていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の方や家族の方の思いや意見を伺い、それらを尊重した内容に近づけるよう努力している。		正しいアセスメントがとれるよう、利用者主体の計画が作れるよう努めたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しを行い、変化が生じた場合は関係者と相談して適宜介護計画を変更させている。	○	状態の変化に伴い計画の見直しを行っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の様子とケアに対する情報や変化の記録用紙を分け書類を総合的に見て、期間内に介護計画の見直しを行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスの方や隣接するGHの利用者の方との交流で一緒にレクリエーションをに参加したりしている。	○	今以上の交流が持てるよう計画中である。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員や消防・自衛隊等と協力して施設行事の支援している。 また高校生の 実習活動の場、ボランティアセンターとも協働して 文化的な事に触れる機会を作っている。		趣味の活動が継続的に出来るよう、定期的にボランティアの方に協力が得られるよう働きかけている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のケアマネジャーの方との話し合いや他施設のサービスが必要なのかを協議して支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターのケアマネの方と定期的に連絡を取り、利用者の方の変化に応じて支援できるように努めている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の方と家族の方と希望を伺いながら、状況に応じて適切な医療が受けられるよう、かかりつけ医を含めて支援を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	担当主治医が認知症に詳しく、相談を行い状態に合わせ指示を頂いている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	施設の看護師によって日常的に健康管理を行っており職員がいつでも相談が出来るようになっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には医療機関及び主治医と連携して、家族とも情報交換を行いながら、早期に退院できるように努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期には利用者の方と家族の方の意向を尊重しながら話し合い、医師などにも助言を頂き、どのような対応をすればよいか検討し、全員で方針を共有している。		状況変化があれば、都度話し合えるようにしている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者の方と家族の方を中心として、主治医と連携を図りながら、決められた方針に従い、変化があれば都度医師の指示を仰ぎながら支援を行っている。	○	新職員もあり定期的にチームケアとして取り組み方の確認が必要。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	暮らしの継続性が保てるよう、情報交換やきめ細かい連携を行いダメージが軽減できるように努めている。		利用者の方や家族の方の意見を尊重して心情等に配慮しながら話し合いを重ねて支援する努力を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを尊重し、誇りを傷つけないような声かけを心がけ、個々に関する情報は関係者以外守秘している	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	生活の場面ではなるべく自己決定が出来るような場面を作り、利用者の方に合わせた声かけをおこなっている。	○ 内容によっては、こちらで決めてしまうケースがあるので今以上に利用者の方の意志を大切にしたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースや体調もあるので、都度傾聴を行いながら支援をしているが、依然、職員のペースで日課を行ってしまうことがある。	○ 全員の意見を全て沿うのは困難であるが、その人らしい生活をしていただく為に改善できるところは話し合い支援に努めていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外泊や受診の時、家族と一緒にいられる方もいるが殆どの方が、移動式美容室を利用している。	好みの髪型があるので、希望に合わせた髪形にして頂くよう、美容室のスタッフと協力をしていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々のケースでは、食事制限もあって対応し難いこともあるが、誕生日には、好みのメニューを取り入れまた、盛り付けだけではあるが、調理に携わっている。	○ 外食も取り入れたり、手作りのおやつを作る機会をもう少し増やして、楽しみや喜びが感じられる支援を行っていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物はその日その時に飲みたいものを伺い提供しているが、その他の嗜好品に関しては支援が行えていない。	日常のおやつも希望に合わせて提供するように工夫をしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別の排泄パターンの把握に努めトイレでの排泄が出来るよう個々に時間を見て、支援を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴日と時間帯が決められている。時間外の入浴も可能であるが、一人ひとりの希望には沿えてない。	○	職員の勤務体制などを考え、可能な事は改善を行っていききたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	前日の睡眠時間や日中の体調を考慮してその時々状況に応じて休息が取れるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を活かして、役割作りや趣味等をお聞きして支援しているが、全員となると継続できない。		全員が楽しみや喜びのある日々を過ごして頂けるように支援したい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の自己管理は数名しか行っていないが、必要時には立て替えて買い物の支援も行っている。	○	利用者の方の楽しみを増やすためにも、個々に合わせて、外出や外食の機会を作りたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調と天候やよければなるべく外に出かける様にしているが、個別の希望に沿えない事がある。	○	個々の希望に沿えられるよう、支援したい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	桜の花見や秋の遠足等へ出かけているが個別の対応は出来ない。	○	家族の方の協力も得ることにより、行きたい所への外出機会を増やしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	広報誌と一緒に家族の方への手紙を書き、一緒に送って頂いている。希望の時は電話も掛けて頂いている。		こちらからも働きを行い、今より頻度を増やしたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	広報誌で来所をお願いを行い、来所時にはお茶を出して、いつでも気軽に訪問でき、居心地のよい空間作りを心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアには継続的に取り組んでいる。		研修等でケアを振り返り、拘束なしのケアに取り組みたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には、居室にも玄関にも施錠していない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に利用者の方の状況を把握して、居室で過ごされている時は定期的に巡回している。		行動を把握することにより、危険など予測出来ることは未然に回避できるよう、意識を持って努めたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の状況に合わせて居室の物品の内容も異なる。錠や針などスタッフで話し合いを行い、危険と判断した場合は使用時以外は管理を行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各研修会に参加して知識を習得すると共に看護師等からも会議の際に学び、状況に合わせた事故防止に取り組んでいる。月1回リスク委員会を開いている。		記録を残し、職員同士で話し合いを重ね、共通理解に努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員会議で話し合いを行い、知識を習得している。年2回は消防訓練なども行っている。また、救急救命法を看護職員や消防署員に定期的に指導を行っている。	○	職員が個人でも研修会等に参加し、訓練を行っているが、全員が臨機応変に対応が出来るようにしたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年2回の訓練を行い、昼夜の対応方法を身につける努力をしている。地域では運営推進委員会を通じて働きかけている。	○	自治会の参加を密にして地域の方々にも協力を得ていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族と普段から関係作りに努め、起こり得るリスクについて、説明を行い、理解が得られるよう対応策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の方の普段の状態を把握して、情報を共有する事で、体調不良や異変に気づく。都度管理者に報告をして早く対応することが出来ている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報をファイルして整理を行い、薬の内容などが理解できる状態にある。なお疑問が生じた場合は看護職員及び主治医に連絡をとって指示を得ている。	○	与薬ミスのないよう努めたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分や繊維質の多い食物を摂取して頂いたり毎日の牛乳・ヨーグルトの提供、また食事の中に寒天を入れる工夫も行っている。	○	なるべく薬に頼らないで自然排便が出来るように支援を行っていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアは一人ひとりの能力に応じて支援している。	○	個々の力に配慮して声かけを行ったり、見守りすることで確実に出来るように支援を

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事量と形態で対応しており、バランスにも配慮している。 水分量も毎日チェックを行い、水分摂取が苦手な方は好きなものを提供して頂いている。		摂取量の変化を見過ごさず、柔軟な対応をしていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを作成しており、感染症の流行に随時対応出来るように予防策に努めている。手洗いうがいを徹底している。またご本人に確認をしてインフルエンザの予防接種も行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器の洗浄や消毒に努め、食材も1日おきに配達をして、全般的な安全管理に注意して、安心できる食事を提供させて頂いている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に観葉植物を置いたり、プランターに季節の花を植え安心して出入りが出来るように工夫をしている。		日ごろからの関係が大事なので、家族の方と密に連絡を取ったり、近隣の行事に参加して親しみのある関係を作っていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗を洗う音やご飯の炊ける匂い、ちまきやぼた餅作りゆず湯や菖蒲湯など、季節行事を生活の中に取り入れ居心地よく過ごせるようにしている。	○	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の途中に談話室や木のベンチがあり一人で過ごしたい時や気のあった方と一緒に過ごせる空間がある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全員でないが、家族の方と協力して頂き、利用者の方の馴染みのあるものや、使い慣れたものを持ってきて頂いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気を行い、ホール・廊下・には湿温度計を設置して、温度著説を行っている。	○	スタッフや利用者の方の間でも体感温度に差があり個々の体調や表情を見て、快適に過ごして頂けるよう配慮していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内のほとんどがバリアフリーになっており、廊下や浴室には手すりを設置して自立で歩くことができるようになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の認知能力に応じた声掛けや説明を行い残存能力を活かし、可能な限り自立した生活を送るように努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	施設周辺的环境は、公共的にも整えてあり施設としても、裏庭にもベンチがあつてくつろぎの場として整えて活用している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者様が落ち着いて暮らせる様に、個々の性格や個性等を把握し、その方に合わせた対応している。  
 また、安全に安心して暮らして頂ける様に疾病や日々の状態変化を観察し、主治医等との情報交換をするように努めている。  
 更に、個人の認知や身体能力に応じて可能な日課をして頂く事で、個々の生き甲斐や活性化に繋げれる様に日々の支援を行なっている。  
 スタッフ全員で利用者様の介護計画の案や思いを出し合い話し合っている。  
 感染予防（手洗い・嗽・共有で使用している物の消毒）、季節感を感じて頂く為施設の中に菜園がある。  
 鳥取杉を使った木造和風建築、明るい日差しが施設内には降り注ぎ、自然にも囲まれ、ゆったりとした感じがします。  
 菜園の野菜の成長も とっても楽しみです。  
 利用者様中心、利用者様本意の暮らしの場となる様、スタッフは情報を共有し合い、良いケアを目指している。  
 生活行事や昔ながらの風習を多く取り入れ、利用者様が生き生きと暮らせる様 支援している。